

日本人の乳がん、アルコールと関連、緑茶やコーヒーとは関連みられず

日本の全国多施設前向きコホート研究（JACC 研究）において、アルコールおよびノンアルコール飲料の摂取と乳がんリスクについて検討した。

JACC 研究に参加した日本国内 24 地域の 40~79 歳の日本人女性 33,396 人が対象となった。20 年以上の追跡期間中に乳がんの発症が 255 例にみられた。飲料の種類別では、最も多く摂取されていたのは緑茶（81.6%）で、次いでコーヒー（34.7%）、アルコール（23.6%）であった。緑茶、コーヒー、アルコールの摂取と乳がんリスクとの関連を評価するためにロジスティック回帰分析を実施したところ、緑茶およびコーヒーの摂取量と乳がんリスクの間には有意な関連は認められなかった（オッズ比はそれぞれ 1.15、0.84）。一方、アルコール摂取は乳がんリスクの上昇と有意な関連が認められ（オッズ比 1.46）、週に 1 回以下と摂取頻度が低い場合にも関連が認められた。

したがって、日本人女性において、アルコール摂取はその頻度が低くても乳がんリスクの上昇と関連するが、緑茶やコーヒーの摂取と乳がんリスクは関連しないことが示された。

出典：Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2020 Jun 1; 21(6): 1701-1707.